

はりきゅう理論 第3版 第1刷～第3刷の訂正

『はりきゅう理論 第3版』は、第1刷(2021年4月25日発行)から第3刷(2023年3月15日発行)におきまして、以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

(2023年12月)

頁	訂正箇所	訂正前	訂正後
105	(1) 軸索反射 (図9-3) 9～12行目	と同時に、軸索の側副枝を介して逆行性に別の侵害受容器へ伝わる(逆行性伝導)。③逆行性伝導により興奮した侵害受容器は、カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)、サブスタンスP、血管作動性腸管ペプチド(VIP)などの神経ペプチドを放出する。	と同時に、軸索の側副枝にも逆行性に伝わり、カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)、サブスタンスP、血管作動性腸管ペプチド(VIP)などの神経ペプチドを神経末端から放出する。
131	2. 刺激入力 1) 受容器および神経線維 15行目	③有髄Aβ線維の興奮は、筋緊張緩和(自原抑制)や脊髄分節性の鎮痛機序を賦活する。	③有髄Aβ線維の興奮は、脊髄分節性の鎮痛機序を賦活する。